

初等教育における特別講義報告

—— 浅井学園大学と哈爾濱学院教員相互派遣 ——

A Report on a Special Lecture on Elementary Education
—— Based on the Faculty Exchange Program
between Asai Gakuen University and Harbin University ——

関 谷 正 子
Masako SEKIYA

I はじめに

浅井学園大学・浅井学園大学短期大学部（以下、本学とする）と中国・哈爾濱学院の間では、1997年から学術交流が始められた。ここでは研究者による相互訪問が毎年継続的に行われ、多くの著書、論文、学会発表等によって研究成果が報告がされてきた。また、両大学間で1997年9月から2004年4月まで22回の特別講義等による交流が行われ、共同研究者間の交流だけでなく両大学の教職員や学生との交流を広めることにも努めてきた。

2000年9月には、本学と中国・哈爾濱学院で共同研究に関する学術交流の協議書が交わされた。

今回の中国・哈爾濱学院における特別講義は、学術交流の一環として技術系科目担当教員の相互派遣によるものである。これは2005年度からの新しい試みとして始められた。今年度は5月に中国・哈爾濱学院において、本学の教員による音楽系と初等教育についての特別講義、10月には本学で哈爾濱学院初等教育学科長による、中国・哈爾濱学院の初等教育についての特別講義が行われた。

II 中国・哈爾濱学院における特別講義

第1回の技術系科目担当教員の相互派遣で、学生対象に音楽療法の講義が行われた。

2005年5月15日（火）8：00から11：00の3時間、哈爾濱学院で初等教育を専攻する学生180名を対象に行われた。

1. 講義概要

日本では21世紀は癒しの時代と言われている。音楽系分野においてもさまざまな病気に効く音楽と称して、多くの書物にその曲名が記されている。急激な成長を遂げてきた日本にとって、ストレスはこの時代の副産物とも言えるのではなからうか。音楽は心を癒してくれる一つの方法として用いられている。

中国・哈爾濱学院では音楽の利用法も踏まえ、音楽療法の特別講義を行った。松井¹⁾は「音楽療法とは、音楽の持つ、生理的、心理的、社会的働きを、心身の障害の回復、機能の維持改



写真1 特別講義を受講する哈爾浜学院学生



写真2 哈爾浜学院特別講義

善，生活の質の向上に向けて，意図的，計画的に活用して行われる治療技法である」と定義している。

音楽は言葉の壁を乗り越えたコミュニケーションであると言われている。言葉や国境を超えて，音楽がさまざまな気持ちを交流させるうえでの手段になる。音楽による交流は声と声，声と楽器，楽器と楽器，音楽と身体表現などのアンサンブルによる方法と，演奏を聴くことにより，何らかのメッセージを送る方法がある。また，集団音楽活動は，歌唱であれ，演奏であれ，身体表現であれ，集団構成員が相互に他者に注意を払ったり，他者の音声を聞いたり，合わせようとしたり，調和をはかろうとしたりすることが求められる。これらは，いずれも社会性と呼ばれる性質のものである。音楽を楽しんでいる間に，自然にこうした社会性が芽生えたり，強化されたりするのが集団音楽療法のメリットであると言えよう。

2. 音楽療法の目的

障害者（児）や高齢者に対して，音楽によって引き出される効果が医療や福祉，さらには在宅高齢者へと広がりを見せている。また，病気にならないためにも音楽が活用されている。療法は広い意味での活動を意味し，健康な人のQOLの向上にも役立っている。成人や高齢者の音楽療法は介護予防，生活の質の向上，リハビリテーションの充実を目的としている。子どもの音楽療法はコミュニケーションの獲得，社会的相互交流，療育的・発達支援的役割など知的過程を通らず，直接情動に働きかけることができる。

3. 音楽の三要素

リズム，メロディー，ハーモニーは音楽を形成する上で重要な三要素と言われている。個々人の心臓の鼓動は子どもが生まれてはじめて獲得する自分のリズムである。そして，加齢とともに失われていく中で最後に残るのがそのリズムである。

4. 音楽療法の実践

音楽療法の基本的なアプローチに，受動的音楽療法（Receptive Music Therapy）と能動的音楽療法（Active Music Therapy）がある。受動的音楽療法は音楽鑑賞を含め音楽を聴くことによって情緒・行動の変容を目的とする音楽療法で，能動的音楽療法は歌唱，楽器演奏，

創作を目的とした音楽療法である。ここでは受動的音楽療法としてエルガー作曲の「愛の挨拶」と聴き、感情面の効果を検討した。能動的音楽療法はトーンチャイム、ミュージックベル、カスタネット、すずを用意し、即興による音楽表現を行った。

5. 音楽療法の効果

高齢者の能動的音楽療法の心理的・生理的のデータを参考に、音楽療法の効果について検討した。心理的効果として感情の快感情、リラックス感、不安感のデータ、生理的効果として皮膚温、心拍数のデータを示した。

Ⅲ 中国・哈爾浜学院教員を対象とした本学初等教育学科概要の講義

平成17年5月17日（火）13:30～14:30哈爾浜学院図書館内研修室において、初等教育科教員と一部学生の参加で行われた。

1. こども学科の教育目的

こども学科は、昭和44年3月、初等教育学科の名称で設置が認可され、同年4月に第1期生32名が入学し幼稚園、小学校の教員養成の学科として出発した。

本学の初等教育学科として設立の準備を始めた昭和40年代初めころは、北海道の小・中学校では女子教員の構成比率は全国平均を大きく下回っている状態であった。また、小学校教員の養成は北海道教育大学のみであり、高等教育女子卒業生の小学校教員志望者が多いにもかかわらず、その受け入れには限界があり女子の教員を目指しての進学希望に対する可能性は十分ではなかった。

以上のような社会的な背景から、当時の初等教育学科は本道の大きな期待を担い、北海道教育大学に次いで私学では唯一の幼稚園及び小学校教員の同時養成を目指し発足し、これまで多くの教員を送り出し、北海道教育の充実・発展に寄与してきた。平成14年度からは保育士養成施設としても厚生労働省より認可され、保育士及び幼稚園・小学校教員の養成機関として今日に至っている。これまでの初等教育学科は、幼稚園・小学校教員養成を主たる目的とする学科であったが、保育士養成を加えることにより、「こどもを取り巻く環境や社会状況の変化など、



写真3 哈爾浜学院教員に対して行われた特別講義



写真4 哈爾浜学院教員に対して行われた特別講義

こどもに関する社会的な課題をみつめ、その解決に取り組む人材を育てるため、乳児から児童を中心としてこども自身やこどもの環境を理解し、その支援の方法や内容を学ぶことを目的とする」新たな視点から学科構成し、平成17年度より「こども学科」に名称を変更した。

これにより、こども学科の教育目標を「こどもの保育や教育及びこどもに関する諸課題に適切に対処できる技術や実践力を身につけた人間性豊かな人材の育成」とし、目標具現化の重点の第一は、保育士資格及び幼稚園・小学校教諭2種免許の同時取得が可能なことである。これは文部科学省が重視する幼稚園・保育所と小学校の相互関連性の一貫性の在り方を重視しているものである。第二は、音楽、美術、体育など人間形成の基盤づくりとしての幼児児童の保育・教育に必要な技能科目の重視である。

本学科での学習成果が幼児や児童に関する幅広い進路選択を可能にするとともに、これらの社会が求める保育や教育、子育て支援、そしてこどもに関する様々な課題にてきせつに対処できる実力を身に付ける指導者が本学から育っていくことを期待する。

2. こども学科の特色ある活動や行事

① 幼稚園、小学校での教育実習及び保育所等での保育実習

幼稚園教諭や小学校教諭の教育職員免許や保育士資格を取得するには、教育実習や保育実習がひとつようとなり、それぞれの実習を規程通り修了しなければ資格や免許状は授与されない。

② 宿泊を伴う学外演習

・ 音楽専修クラス

2年目の学生を対象とした必修専門科目である。この授業は、参加者自身の興味や選択のはばを広げるとともに、音楽を通じて多くの人々とのコミュニケーションを図り、音楽の技能を高め、地域との触れ合いの中で豊かな感性と文化を尊重する態度を身に付けることを目的とする。

・ 美術専修クラス

1年目の学生を対象とした必修専門科目である。この授業は、野外写生会を通して描写技術を積むと共に、美術館での作品に関する知識や鑑賞眼を養う。

・ 体育専修クラス

1年目の学生を対象とした必修専門科目である。この授業は、スキー場でアルペンスキーを実施し、希望者は資格検定も受けることができる。

③ 主な行事

音楽鑑賞会、美術鑑賞会、スカントリースキー大会の参加、卒業記念発表会、農園収穫祭、大学祭の参加

④ 海外研修

アメリカ教育研修、韓国姉妹大学の訪問研修

IV 本学における哈爾濱学院初等教育学院長の特別講義

平成17年10月20日（木）10：40～12：10まで本学において、哈爾濱学院初等教育学院陳威学院長の特別講義が行われた。本学初等教育学科の学生を対象に教師専門化および初等教育専門化の樹立についての講義であった。講義の内容は以下の通りである。

近年、教師専門化レベルを高めることは、すでに世界教育発展および教師養成の実施における共通傾向となった。

我が国では、教師専門化の研究および実践は、まだ初期段階に止まり、教師に対する専門的な訓練は、まだ相当な制限があり、教師を養成する際に、職業専門的な効果は、まだ十分な力が発揮できず、とりわけ、多様な養成パターンが共存する小学教師を養成する高等教育システムが、高等教育の新しい要求および基礎教育改革が小学教育専門化に対する厳しい挑戦に臨んで、如何に“教師専門化”の国際傾向、および高等教育背景の下に新しいタイプの本科小学教師予備軍の特徴に目を向けて、小学教育専門への樹立を強化し、専門的養成方法を整理し、訓練方法を構築し、本科学歴の小学教師の専門レベルを推進することは、小学教師教育の目標と必然の流れである。

“教師専門化”とは、以下に述べる基本的な意味を持つべきである。

第一、“教師専門化”は学科専門化の意味以外に、教育専門化の意味も含む、さらに、定められた学術レベルと学歴が必要とされる。

第二、特定の職業特徴、人格的特徴と能力特徴が必要とされる；

第三、ふさわしい保証制度がある、例えば、教師資格証書の制度、教師の教育レベルに対する評価制度、および教師が継続的に教育できる制度である；

第四、国家が教師を養成する専門的な機構、専門的な教育内容と方法を備えること。

我が国の“教師専門化”は、これから、学歴と学術レベルを上げて、素質教育の能力および職業道徳水準を上げることを意味し、これが“教師専門化”の発展に関わる制度作りにも繋がっていくのである。小学校教師は、小学校教師という職業に従事する専門家であり、他の専門家



写真5 陳威学院長による本学での特別講義



写真6 陳威学院長による本学での特別講義

と同様に、かならず完全な高等教育を受け、専門的な知識、技能を取得し、専門家としての心得と感情を有し、専門に対する必要な見学と実習を経て、次第に、小学校教師という専門職を手にする。世界各国の小学校教師養成制度の発展過程を見てみると、小学校教師の四年制化の実現は、社会発展需要に適応する歴史の必然である。したがって、我が国は、高等教育システムの中に、大卒学歴の小学校教師を養成する小学校教育専門を設立することは、大卒学歴の小学校教師の養成方法を大学の専門の角度から構築して、さらに規範性、主導性と超時代性を持つ特徴があり、小学校教師専門化発展の必要条件である。

したがって、小学校教育専門が、高等教育システムの中で、独特な養成する価値という位置づけを有し、このような新しい教師養成を構築する中で、小学校教師養成の高い基準と要求、そして独特な専門的特徴をもって、さらなる新しい発展を獲得するのである。

1、初等教育専門化される四年制小学校教師の人材養成の目標

- ① 知能構成の総合化
- ② 職業技能の専門化
- ③ 小学校教師は職業への尊敬

2、養成は総合性を重視、勉強は専門性を重視

3、教養課程の基礎科目、教育専門科目、教育基礎科目の三つの性格を一本化するカリキュラムの構築

4、四大テーマの訓練方法と教育活動づくり

- ① 現代教育理念の研修
- ② 教育教学を伴う基礎技能の訓練
- ③ 科学活動
- ④ 教育実践

教師専門化と教師教育専門化は世界の流れでもあり、我が国高等教育システムの中で、教師教育発展の客観的な要求である。新しい基礎教育カリキュラムの実施は、専門化的かつ質の高い小学の教師を養成するために切なる需要である。従って、教師専門化を目標として、本科学歴の小学教師養成への研究と実践は、21世紀の教育持続発展の根本的な保証である。

5、講義後の学生の感想

今回の講義を聞いて日本と中国の教育者の育成方法についての違いをしりました。他にも中国の歴史なども話していただき、教育する事への意識がどのように変化したか、中国ではより良い教育を目指すために、日本でいう大学・短期大学・専門学校・大学院などの課程で様々な日本にはない選択肢があることを知り、とても熱心だと思いました。他国の教育について知る機会は少なく、始めて知る内容ばかりで、私にとってとても貴重な時間となりました。

V お わ り に

中国音楽は3000年以上前に儀式の音楽として定められている。日本では中国の楽器として胡

弓が知られている。2弦をもち、柔らかで美しい音色は私たちの心を捉える楽器として親しまれている。このように多くの伝統楽器をもつ中国で、現代の学生たちはどのような音楽を求めているのか、非常に興味深いものがあった。中国の学生は快活なリズムに身体を動かし、手拍子を打ち、どんな小さな音にも耳をすまして表現をすることは、世界中で共通する音・音楽の原点であると感じられた。

初等教育における音楽は中国でも日本と同様にヨーロッパの音楽が主流をしめていた。言葉は通じなくてもリズム、メロディーは共通である。中国・哈爾浜学院特別講義で音楽活動を取り入れた授業は、学生たちに活気とエネルギーを与えたものを思われる。授業の最後に簡易楽器を用いた演奏は、音楽は世界共通であることを実体験させてくれた。

しかしながら、これからの音楽教育は伝統音楽を重んじ、風土に合った音楽を根ざしていくことと西洋音楽の融合が望ましいと考える。

謝辞

中国・哈爾浜学院特別講義で通訳を担当された鄭力先生と本学初等教育学科の特別講義で通訳をされた玉置哲敏様に心より感謝いたします。また、報告書を書くにあたって情報提供にご協力をいただきました、本学国際交流課戸ノ崎聖子課長、北爪華代課員にお礼を申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 松井紀和：「音楽療法総論」『音楽療法入門』日野原重明監修，春秋社，pp 3～17，1999
- 2) 今野洋子他：「中国の大学生の生活に関する講義報告」『日本と中国の大学生の精神的健康』川嶋書店，pp171～186，2004
- 3) 文部省：「諸外国の学校教育」大蔵省印刷局，pp16～35，1996